

令和5年度 安城市行政評価  
外部評価報告書

安城市行政改革審議会

## 目次

1	外部評価について	1
	(1) 外部評価対象事業選定の視点	1
	(2) 外部評価対象事業の選定	1
	(3) 外部評価の実施	1
2	令和5年度外部評価 評価結果	2
	(1) 外部評価結果一覧	3
	(2) 行政改革審議会における評価結果内容	3
	No. 1 結婚記念品贈呈事業【市民課】	3
	No. 2 生活支援体制整備事業【高齢福祉課】	4
	No. 3 健康づくり環境整備事業【健康推進課】	4
	No. 4 アグリライフ支援事業【農務課】	5
	No. 5 公園補修事業【公園緑地課】	6
	(3) 総括的な意見	77

## 1 外部評価について

### (1) 外部評価対象事業選定の視点

まず、事業内容のバランスに配慮した上、3つの視点に基づき選定された事業について、外部評価を実施しました。

《3つの視点》

- ア 業務の効率性や最適化の観点から外部評価が必要と考えられるもの
- イ 行政課題として検討が必要なもの
- ウ その他、社会情勢の変化に対応するため外部評価にかける必要があるもの

### (2) 外部評価対象事業の選定

上記視点に基づき選定された対象事業は、下記の5事業です。

N o	事務事業名	担当課
1	結婚記念品贈呈事業	市民課
2	生活支援体制整備事業 (あんジョイ生活サポーター養成研修)	高齢福祉課
3	健康づくり環境整備事業(健康測定会)	健康推進課
4	アグリライフ支援事業	農務課
5	公園補修事業	公園緑地課

### (3) 外部評価の実施

行政改革審議会委員がAグループとBグループの2グループに分かれ、各グループ1回、計2回外部評価を実施しました。

#### ア グループ

グループ	委員名(50音順・敬称略)
Aグループ	浦田真由、小山敦、斉藤直基、杉戸厚吉、寺田覚
Bグループ	赤木禎行、熊谷忠信、齊藤由里恵、高松淳也、山本美由湖

#### イ スケジュール

開催日	内容	担当グループ
10月20日(金)	アグリライフ支援事業 公園補修事業	Aグループ
10月23日(月)	結婚記念品贈呈事業 生活支援体制整備事業 健康づくり環境整備事業	Bグループ

#### ウ 事業数

各グループ2事業又は3事業の合計5事業

#### エ 外部評価の流れ(1事業50分)

- (ア) 担当課による事業説明(10分)
- (イ) 行政改革審議会委員との質疑応答(25分)
- (ウ) 行政改革審議会委員による評価(3分)

(エ) 行政改革審議会委員の意見 (10分)

(オ) グループリーダーによる評価発表 (2分)

**オ 評価方法**

行政改革審議会委員が、評価区分に従い評価を行う。

**カ 評価区分 (5区分)**

拡充：事業規模 (事業量、予算、人員) を拡大し、事業内容を充実させるもの

要改善：事業規模または事業内容を現行どおり維持・継続するもので改善する  
必要があるもの (実施主体の見直し、事業の手法・内容の一部見直し  
等)

現行どおり：事業規模または事業内容を現行どおり維持・継続するもの

縮小：事業規模または事業内容を減らすもの

廃止：事業を廃止するもの

## 2 令和5年度外部評価 評価結果

### (1) 外部評価結果一覧

(単位：人)

No.	事業名	担当課	評価結果	評価結果内訳				
				拡充	要改善	現行どおり	縮小	廃止
1	結婚記念品贈呈事業	市民課	廃止	0	0	0	2	3
2	生活支援体制整備事業（あんジョイ生活サポーター養成研修）	高齢福祉課	要改善	0	5	0	0	0
3	健康づくり環境整備事業（健康測定会）	健康推進課	要改善	0	5	0	0	0
4	アグリライフ支援事業	農務課	拡充	4	1	0	0	0
5	公園補修事業	公園緑地課	要改善	0	4	0	1	0

### (2) 評価結果内容

#### No. 1 結婚記念品贈呈事業【市民課】

事業内容	本市に婚姻届を提出された方に、記念品としてデンパークの入園券（2枚）をお渡ししています。
論点	令和4年度から婚姻届及び出生届出用紙のデザインに本市のモチーフを使用したことで、届出用紙で本事業の目的である「市への愛着を持っていただく」ことや「市のPR」を行えるようになりましたので、事業自体の廃止も含めて検討したいと考えています。
評価結果	<b>廃止</b>
意見等	<p>①【本事業の効果と今後の方向性について】</p> <p>婚姻届提出に係るデンパーク入園券配布は、本市への愛着醸成には極めて効果が薄いですが、オリジナル届出用紙が好評であり、本事業の目的の1つである「市のPR」も可能であるから、事務負担等を勘案し、本事業は廃止としても良いのではないかと考えています。</p> <p>②【デンパークのPRと利用者誘致に対する組織横断的な協力について】</p> <p>デンパークのPRと利用者の誘致は施策として重要である。本事業もその一端を担っていることを考えると、もう少し市横断的に実施していくことが考えられる。</p> <p>③【市の活性化に効果的な事業への経営資源の配分について】</p> <p>多くの人を呼び込み、居住を促進することが市の活性化につながることから、市のPRに新しい施設を積極的に活用されたい。また、市の活性化により効果的な事業に経営資源を配分する上で、部署間の連携を図ることが組織として大切である。</p>
今後担当課に取組を求める内容	安城をPRするという目的からすると、オリジナル届出用紙で可能であるから、本事業は廃止で問題ないと判断する。ただ、多くの人を呼び込み、居住を促進することが市の活性化につながることから、組織横断的な連携を図り、市のPRと本市への愛着醸成に対して効果的な事業に経営資源を配分されたい。

## No. 2 生活支援体制整備事業（あんジョイ生活サポーター養成研修）【高齢福祉課】

事業内容	「掃除」「洗濯」等専門的な知識がなくても身体介助を必要としない方への生活援助を行う担い手を養成するため、市指定のあんジョイ生活サポーター養成研修を実施します。
論点	<p>上記で挙げた問題につき以下の仮説をたて、解決の取組を考えました。</p> <p>①受講者が減少していることについて仮説：2日間で11時間のカリキュラムが長い。 取組：カリキュラムの短縮（2日から1日）を図り、興味のある者が気軽に参加できるようにします。</p> <p>②研修修了者の年齢が高い。仮説：周知方法に工夫が足りなかった。取組：これまで主に定年後の生きがいがづくりやボランティアに興味がある人達を対象に参加者を募ってきました。</p> <p>今後は周知方法と研修内容を変更して、異なる年齢層の取り込みを目指します。具体的には、市内小中学校にも募集チラシを配布することで、将来介護職を目指す若者や子育てが一段落し就労を考える保護者の参加を促します。</p>
評価結果	<b>要改善</b>
意見等	<p>①【研修対象の多様化と効率的なアプローチについて】</p> <p>介護人材を増やすには、学生等の若年層や介護経験者等の多様な層に間口を広げ、SNSの活用や、副業という働き方のスタイルを提案する等対象に合わせて効率的なアプローチをされたい。また、実際の就業事例を紹介するPRも有効である。</p> <p>②【研修修了者の進路等の把握について】</p> <p>本研修の受講生増加に対する今後の対策を取る上で、研修修了者の進路や、介護職に就いた人数等を具体的に把握することは必須であり、この数字を踏まえて目標を設定することが必要である。</p> <p>③【シルバー人材センターとの連携について】</p> <p>本研修はシルバー人材センターからの需要が高く、同センターが安城市の介護業界の一部分を担っていることからすると、雇用の確保や研修内容の改善、人材育成等について相互に連携することを検討されたい。</p>
今後担当課に取組を求める内容	介護職に就く本研修の修了生を増やすことにより将来の介護人材不足に備えるという、本研修の目的を達するには、研修対象者を広く捉え、対象に合わせた効率的なアプローチが有効ではないか。また、研修修了者の進路等の実態把握やシルバー人材センター等との連携により、研修内容の改善や受講者増加の対策を進めることが必要である。

## No. 3 健康づくり環境整備事業【健康推進課】

事業内容	市内で健康測定会（体組成測定、骨強度測定、血管年齢測定、食育SATシステム、脳年齢測定等）を実施し、その結果を踏まえて助言を行い、健康づくりを自発的に始めるきっかけを作ります。
論点	令和5年度は企業にアプローチし、勤労世代に向けて働く場での健康測定会を実施し、啓発を行っていく予定です。

	<p>関心のない方に少しでも関心を持っていただくことや、少し関心があるけれど行動に移せていない方へのアプローチについて、この事業の中でより効果的なアプローチ方法を検討したい。</p>
評価結果	<b>要改善</b>
意見等	<p>①【対象者に合わせたアプローチとメッセージの明確化について】</p> <p>保険者等による取組と重なる活動を精査し、勤労世代に効果的で効率的なアプローチを検討されたい。また、市が、なぜこの活動を、そこで実施するのか、というメッセージをわかりやすく伝える工夫が必要である。</p> <p>②【企業の健康に係る取組の横展開について】</p> <p>健康に力を入れる企業が増えている一方で、取組が進んでいない企業もあることから、良い取組事例の紹介や、商工会議所等との連携により、地道にこの活動の裾野を広げられたい。また、健康や運動に関するチラシも十分に活用されたい。</p> <p>③【本事業の目的を達成する方法について】</p> <p>職員のマンパワーには限りがあることや、企業の都合を考慮すると、働く場での健康測定会の開催に拘らなくても、企業に測定機器を貸し出したり、イベントへの出展に注力する等によっても勤労世代が健康に関心を持つきっかけづくりができるのではないかな。</p>
今後担当課 に取組を求 める内容	<p>健康に関心を持つきっかけとなるよう保険者等と連携し、保険者等の取組に合わせたアプローチを図るとともに、健康測定会の趣旨をわかりやすく伝えるよう工夫されたい。また、企業との連携等他の方法については、健康測定会以外にも、良い取組事例を紹介する等積極的に検討されたい。</p>

#### No. 4 アグリライフ支援事業【農務課】

事業内容	<p>初心者・親子向けの野菜づくり講座を実施します。</p>
論点	<p>野菜作り実践コース（一年間）の開講。</p> <p>畑・樹園地お見合いシステムの紹介、運用。</p> <p>区画数の検討。</p> <p>将来に向けて維持、拡充の検討。</p>
評価結果	<b>拡充</b>
意見等	<p>①【住民ニーズに合わせた講座の拡充について】</p> <p>初心者・親子向け講座の人気の高さを踏まえると、圃場の拡大や、講座の開催回数の増加等の工夫により、住民ニーズに応えることを期待する。</p> <p>②【耕作していない農地の活用方法の検討について】</p> <p>市内に点在する耕作していない農地をアグリライフ支援センターの圃場とし、野菜づくり講座受講者が講座修了後に農作業をしたり、家庭菜園を楽しむ市民の講座を受講できる場として活用すれば、農業関係者を増やす一助となるのではないかな。</p> <p>③【耕作していない農地の貸借のニーズに合わせた畑・樹園地お見合いシステムの改善について】</p>

	耕作していない農地の貸借への潜在的なニーズがあるにもかかわらず、畑・樹園地お見合いシステムのマッチング件数が少ない現状を鑑みると、問題点を分析し、内容を工夫する等により実態に合わせたシステムへの改善が必要である。
今後担当課 に取組を求 める内容	初心者・親子向け講座の人気の高さに見られるように、農業に関心が高い市民が多いことから、耕作していない農地の積極的な活用等による圃場の拡大を検討し、住民ニーズに応えることを期待したい。また、農地の貸借に対する潜在的なニーズはあることから、耕作していない農地の解消のため、畑・樹園地お見合いシステムをより使いやすい形に改善されたい。

#### No. 5 公園補修事業【公園緑地課】

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した公園施設を長寿命化計画に基づき更新工事を実施しています。</li> <li>・公園リニューアル計画に基づき公園のリニューアル整備を実施しています。</li> <li>・不具合が生じた公園施設の修繕工事などを行っています。</li> </ul>
論点	<p>昭和期に整備した36か所の街区公園の中から優先順位の高い15か所の街区公園のリニューアルを進めています。</p> <p>今後は近隣公園や地区公園などの大きな公園のリニューアルも必要となってきますが、こうした状況の中で、残りの街区公園についてもリニューアルを進めるべきでしょうか。</p>
評価結果	<b>要改善</b>
意見等	<p>①【今後の整備方針策定と策定に際しての視点について】</p> <p>公園の整備水準を高め、地域住民の声を反映したリニューアルを進めていることは評価する。しかし、現行の計画完了後はリニューアルを進めるのではなく、まずは、市全体で見て、どのような公園が求められているかを見極めることが必要である。</p> <p>②【時代に合わせた特色のある公園づくりについて】</p> <p>公園に対する市民のニーズや公園の使われ方は、社会環境とともに大きく変化している。今後の整備方針の策定に当たっては、地域単位ではなく、大きい範囲で公園のすみ分けをしたり、近隣自治体の事例を参考する等により、特色のある公園づくりを進めることが必要ではないか。</p> <p>③【安全性を重視した公園補修事業について】</p> <p>地域のニーズに合ったリニューアルは理想であるが、予算が限られていることを考えると、安全性を重視した公園補修事業を優先すべきではないか。また、この視点から、現行のリニューアル計画の見直しを視野に入れてもいいのではないか。</p>
今後担当課 に取組を求 める内容	地域住民のニーズを汲み取ったリニューアルも重要であるが、公園に対するニーズや公園の使われ方は、社会環境とともに変化することから、今後は市全体でどのような公園が求められているかを見極めた上、特色のある公園づくりを進められたい。



### (3) 総括的な意見

- ①事前と当日の資料が年々充実してきており、多くの事業において質疑応答や説明も明瞭であったことから、非常に充実した議論が出来た。
- ②事務事業評価シートにおける課題と論点の関係がわかりにくく、担当課と委員との質疑応答がかみ合っていない事業があった。当日の議論を充実させる上で、事務事業評価シートの書き方や項目の立て方の工夫等により予め論点を具体的かつ明確にしておくのか、または、当日の質疑応答の中で論点を再度確認するのか、次回以降に向けて検討が必要である。
- ③成果指標は、大きな政策目標を実現する手段であり、達成することに拘り過ぎると手段が目的化してしまう。成果指標は、数量で表すのが難しい場合もあることから、事業によっては成果指標自体を検討する必要があったのではないか。
- ④今回の対象事業のうち複数の部署にまたがる政策に基づくものについては、外部評価の場の提言が各課に共有され、活かされるよう取り図られたい。また、市民にとっては、組織内の政策のすみ分けより、居住する自治体に愛着や誇りを持てるかや、住みやすさを感じるか等の方が重要であるから、今回の外部評価を、今後の政策の在り方について考えるきっかけとされたい。
- ⑤どの事業も、限られた経営資源の中でPDCAサイクルを回し、取り組んでいることは評価したい。外部評価における提言が、今後の事業運営においてどのように活かされたかや、貢献できたかといったフィードバックがあると、委員としても喜ばしい。